



北アフリカ地域ニュース

エジプト：物価上昇

(8月11日付エジプシャン・ガゼット紙)

1. エジプトの政府統計機関 (CAPMAS) は、高騰する食品価格により、都市部における7月の物価上昇率は対前年比で22% (地方部も含む国全体での7月の物価上昇率は23.1%) の伸びとなり、前月の20.2%から上昇したことを明らかにした。CAPMASによると、6月の対前月費での物価上昇率が0.6%の伸びであったのに対し、7月の同物価上昇率は、2.2%の伸びとなった。7日、エジプト中央銀行 (CBE) は、上昇するインフレの伸びを抑えるため、翌日物金利を0.5%引き上げ、預金及び貸出金利をそれぞれ11%、13%とした。
2. エジプトの投資銀行である EFG-Hermes は、声明において、政策金利の引き上げは金融システムにおける豊富な流動性及び低い預貸率によって限定的な効果しかないと述べた。また、同投資銀行は、中央銀行はインフレに対処する有効な手段として対ドルでのエジプト・ポンドの増加を容認しそうであると述べた。エジプト・ポンドは07年以降対ドルで7%増加している。
3. 過去数十年間で最も早いペースで成長を続ける経済にもかかわらず、伸び続ける物価上昇率は、一人あたりの所得が低く、かつ他の中東諸国と比べて貧困率が高いエジプト政府に対して難題をつきつけている。6月に対前月比で0.8%の伸びと落ち着きをみせた都市部における食品及び飲料品価格は、7月に3.1%と再び上昇した。
4. リハーム・デスーキ Belton Financial シニア・エコノミストは、世界的に取引される商品の価格が長期にわたって意味のある低下をしない限り、エジプトにおける物価安定にはつながらないであろう、(物価上昇は) 利益を最大化するために現在の価格水準を維持しようとするベンダーのせいによるものであると述べた。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799